



# 高知県と東京農業大学との連携推進について



**趣旨** 高知県と東京農大が結びつきを深め、お互いのもつ経営資源を有効に活用し、ともに発展する

## 東京農大概要

- ・農業系専門大学(125年の歴史)
- ・実学主義で体験学習や経験を重視
- ・本県出身者(約800名、現存約600名、県職員29名)

## 連携の目的

- ・地域を支える人材の育成確保
- ・地域課題の解決
- ・技術や情報、人材の活用
- ・就職及び就農支援



## 取組みの内容

- ・高知県の理解とサポーター増大(大学での講義や高知県での農業体験)
- ・課題提起や研究フィールドとしての活用(中山間等地域でのフィールドワーク支援)
- ・試験研究機関との共同研究や連携(鮮度保持や醸造技術など)
- ・インターンシップの実施、農業研修の支援



## 連携担当教授陣



・農家研修、体験ツアー  
高畑 健(農学科助教)  
(高糖度果実生産技術)



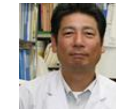
・地域課題対策  
宮林 茂幸(森林総合学科教授)  
(農山村と都市の交流)



・鮮度保持  
馬場 正(農学科教授)  
(超長鮮度保持技術)



・微生物  
篠原 弘亮(農学科教授)  
(植物病原菌分類同定)



・醸造関係  
穂坂 賢(醸造科学科教授)  
(有用酵母の分離と利用)

## 高知県のメリット(東京農大のメリット)

- ・学生受け入れによる高知家PR、将来の担い手確保(現地研修先や実践学習等)
- ・鮮度保持による本県農産物の付加価値向上(研究テーマや素材の確保、研究成果)
- ・中山間等地域課題の解決(研究テーマや素材の確保、研究成果)
- ・本県酒造技術や製品力向上(研究テーマや素材の確保、研究成果)
- ・優れた人材の高知県への呼び込み(就農、就職先の確保)



鮮度保持

## 連携項目やテーマ

連携項目	テーマ	内容	予定
試験研究との連携	鮮度保持技術	農大教授による技術的なアドバイス	鮮度保持技術検討会(1回) 農学科(馬場教授、篠原教授)
	酒米振興		土佐酒振興プラットフォーム(2回) 醸造科学科(穂坂教授)
	鮮度保持技術 酒米振興など	セミナー、講演会への招致	鮮度保持技術に関する講演会(馬場教授)(1回) 土佐酒振興に関するセミナー(穂坂教授)(1回) 微生物活用に関する講演会(農学科 篠原教授)(1回)
人材の交流	学生の農作業体験	担い手センター、農家での受入	体験実習(10名):担い手育成センター、農家(30日間) 体験ツアー(15名):農業担い手育成センター(2日)
	学生の研究支援	研究可能な県機関、農家情報の提供など	研究課題や体験実習先受入農家情報の提示(随時)
	研究員の大学での研修	東京農大での研究員の研修	鮮度保持技術の習得研修(5日間)
	学生の就農・就職支援	就農・就職相談会	学園祭などでのブース設置(11月)
	学生の職場体験	県機関でのインターンシップ	農業関係県出先機関(試験研究、普及所)や県庁で職場体験受入(8月)
高知県のPR	農大での講義、講座	寄付講座(高知県の農業施策、担い手対策など)	大学のカリキュラムへ設定(6月、12月) 内容:高知県の農業について、担い手対策など
	農大イベントへの参加	学園祭での本県PR	学園祭へのブース出展(11月):パネルや農産物展示、就職就農等相談など
その他	連絡・協議	幹事会の開催	計画の策定・実施協議(5月)、次年度計画の検討(1月)

## 期待される効果

- ・農業の担い手の確保による産地拡大
- ・鮮度保持技術による商品力の向上
- ・酒米生産の加速化



産地の維持拡大



吟醸酵母



鮮度保持(高知県開発パッケージ)